

13

南御堂の門前にて

おおさか

丸ごとワイド3ページ



御堂筋 ものかた

阪城となった地に一字の坊願寺を建立されましたが、舎を建立され、これが石山慶長3(1598)年、ここに移りました。東本願寺に発展しました。当時に移りました。東本願寺が慶長7年に徳川家康によって寄進されるまでここは当派の本山でありました。当院は御堂筋の中心に位置し、南御堂として親しまれ、真宗の教化と大阪の文化の

なかつた。蓮如を慕う宗徒たちは理想郷を目指し、一つのまとまったコミュニティーを形成していった。その過程に学ぶものがある。当時は戦国時代の中にあり、住民は将来の生存に不安を抱き、心の平静と安らぎを求めていた。その求めに応じたのが蓮如の説く阿彌陀仏による救いだつた。こころの豊かさ、思いやりが求められる今日、この問題を教育界で解決しようとする風潮が見えるが、宗教界の分担も求めるべきで

蓮如上人が大阪の名づけ親

68)年から大阪と改められたのです。石山本願寺の寺内町はやがて一大城郭を構えるようになりましたが、元龜元(1570)年、織田信長によって石山合戦が挑まれました。本願寺は11年に亘り抗戦し、天正8(1580)年、和を講じて鷲森、貝塚、天満の各地を経て京都に移りました。文祿4(1595)年、教如上人は渡辺の地に大谷本

発展に寄与しています。南御堂「難波別院」(抜粋)と記されていた。今さらながら蓮如の中興ぶりがうかがえるが、蓮如が大阪の名づけ親とは知ら

はないか。真宗の口語による読経・唱和などにみる「宗教への親密化」に、今日の宗教家はもっと貢献すべきと思う。社寺や教会が冠婚葬祭の時だけの施設ではなく、信仰生活が共有できる舞台になって欲しいものである。これは宗教家に任せるのではなく、市民・住民も意識を高めなければならぬと思う。

南御堂前の説明板に「親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は中興の祖と仰がれた蓮如上人によって飛躍的な進展を遂げました。蓮如上人は真宗再興の志に燃えて近畿、北陸を中心に各地に行化し、明応5(1496)年82歳の秋、のちに大

文祿4(1595)年、教如上人は渡辺の地に大谷本

